

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国とほぼ同程度であり、一定の定着が見られます。全体的に知識および技能の正答率が高かったです。特に「わが国の言語文化に関する事項」については、言葉の変化や世代による言葉の違いについて、よく理解ができていました。昨年度の課題であった事項でしたが、継続した学習指導の成果が見られました。一方で、「情報の扱い方に関する事項」について、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方に課題があること、また、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える力が弱い傾向にあることがわかりました。
- ・算数の平均正答率は全国と比べるとやや高く、一定の定着がみられています。特に「測定」については、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出して答えを導き、記述して解答することができています。一方で、「変化と関係」については、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数値を見出すことと課題が見られます。
- ・理科の平均正答率は全国よりも高く、高い定着が見られます。特に「エネルギー」について電気回路のつくりかたや、電流がつくる磁力について正答率が高く、理解が定着しているとわかりました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「読書は好きですか」「将来の夢や目標を持っていますか」について高い数値を示しています。また、各教科の学習が普段の生活の中で活用できているか、将来、社会に出たときに役に立つと思いますかという質問について肯定的に答えている児童の割合が高いです。
- ・課題となる項目
「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」という質問では、全く読まないと答えた児童の割合が高いです。また、「学校の授業時間以外に、普段、ICT機器を、勉強のために使っている」とした児童の割合が全国に比べて低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・「情報の扱い方に関する事項」について、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方に課題があることから、その表し方の効果や有用性に気づかせながら、読むことと書くことの一体的な指導と授業づくりに取り組みます。また、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える力を高めるために、身近な生活の中から聞くことの必要性や切実感のある話題を学習活動に取り入れ、自分の作文や発表活動、さらに生活に生かせるような活動を取り入れます。
- ・「変化と関係」について、児童の興味関心を高めるために、生活の中にある伴って変わる二つの数量の関係を学習課題にした授業づくりをしていき、計画的・系統的に指導していきます。
- ・理科の学習の興味と理解をさらに深めるために、普段より身近な現象と生活との関連に気づかせながら、ICT機器や協働的な学びを取り入れて仲間とともに学び合う授業づくりをします

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「学びの甲斐善八か条」や「家庭学習のすすめ」などを参考にして主体的に学べる環境づくりと声かけをお願いします。
- ・情報モラルにふれながら、社会や理科の学習に関連した事柄について新聞やニュース、ICT機器を使った家族対話の時間を設けてみてください。
- ・親子で「家読」の時間を設けて、同じ本を親子で読んだり感想を伝え合ったりしてみてください。